

ご 案 内

《 「個別スーパービジョン**private-supervision**」を望まれる臨床家諸氏へ 》

■ 当方で擁護される「精神分析的療法」とは、クライアントの内なる‘自己生成過程’の展開を援助することを狙いといたします。この趣旨において、スーパービジョンでは、まずはクライアントの個としての生成の軌跡を刻む彼(彼女)に固有な‘個の言語’をセラピスト自身の耳が聴き分けられるように導かれます。なぜならば、そこにその人独特の‘蹉きの芽’があり、さらには‘成長の芽’があり、セラピストにとって鍬入れ可能な土壌とは、それ以外に無いのですから。簡潔にいうなら、クライアントに興味を抱けること、それがなにより肝心であり、セラピスト自身が面白く聞けるそして面白く語れるといった**応答能力**を、責任ある自己決定の能力ともども、身につけられる方向を目指されたい。殊更にクライン派的な‘解釈’をお勉強なさりたいという方の意には添えないかも知れませんが…。

■ 「個別スーパービジョン」で症例を提示してくださる「スーパーバイジイsupervisee」に期待されますことは、クライアントがああ言った、こう言ったというような事柄の羅列に終始することなく、むしろそれらのなかに自分は何を見たか、聞いたか、感じたか、考えたかといったセラピスト自身の**応答的関わり**そのものが語られること、即ち対象を自己に繋げることの**内的・力動的な営み**に、よりきめ細やかな**注意attention**が向けられるよう奨励されます。

■ 学会・研究会等での「症例発表」は、避けられる限り、当面は差し控えるようにお勧め致します。クライアントの『臨床像』を、セラピスト側の私的必要性に迫られて、性急のあまり‘観念の継ぎ接ぎなる(命のない)張りぼて’にしてしまうがごとき危険に晒してはなりません。生きているその人(クライアント)を生きている言葉で語れるまでに、十分に‘付き合った’と言えるだけの時間をセラピスト自身が最大限まずは惜しまないということが、何よりも肝心なのです。つまりは、クライアントとの**契約関係**を擁護するところの**倫理的感性**が問われましょう。

■ 当方では、季節ごと年に5回(1~2週間、総計7週間)のお休みが予定されております。セッションは、それらを除いて毎週(祭日をも含む)継続され、キャンセルなされた場合でも、料金は課されます。

■ 契約に当たって、最後に一言:「個別スーパービジョン」が、某かの意味を生むとすれば、「スーパーバイジイ」となるあなたが、**純粋なる『認識愛(知ることへの熱意)』**をクライアントとどこ迄共有し得るか、並びにその為**に不可欠な思惟への沈潜に費やすべく時間的余裕**はもちろん、**心理的余裕**をどこまで確保できますか、それが概ね肝要となりましょう。

§「山上千鶴子(やまがみちずこ)」プロフィール§

<経歴>

■1971.3. 京都大学大学院教育学部修士課程臨床心理コース修了

■1973.10. 渡英の翌年、The Tavistock Clinic (タヴィストック・クリニック)、Training Course of Psycho-analytical Psychotherapy with Children, Parents & Young People (The Tavistock Centre, London) に、日本人として初めて a full-time trainee として入学を許可される。(このトレーニング機関は、故メラニー・クラインに直接指導を受けた、或いはその流れを汲むところの分析家グループが指導陣を占めており、歴史的に「クライン精神分析学派」発展の揺籃的役割を為して来た。)

6年間の在籍中、故Dr. Donald Meltzer(メルツァー)率いる英国でも最もラディカルと見做される分析家グループに帰属し、特には故Miss. D. Weddell との5年に亙る教育分析(週5回セッション)をも含めて、それぞれの諸氏より親しく薫陶を受け、『精神分析的療法家』としての規律を培う。

■Pre-clinical Period of the training の概要: Infants Observation Seminar(乳児観察セミナー), Work Discussion Seminar, Reading Seminars 及び Lectures に参加。臨床活動に入る前段階として、様々のセッティングにおける Work Experiences が奨励された。この時期、それらの経験から得られた Observation-materials(観察記録)にコメントされるスーパーヴァイザーのフィード・バックを通して、基礎的な the Kleinian way of Understanding (クライン流儀の人間理解) が次第に Trainees に感得されてゆくことが狙いとされていたと推察される。具体的に携わった経験としては、養護施設 "The Hollis" にて Assistant Houseparent として一年程勤務。それ以降は、フリーのオブザーバー(観察者)として、Thomas Coram Infants School, St. John's Church Play-Group, St. Thomas Day Hospital, Camden District Day Care Centre for the Deprived Children の各施設において、毎週1~2回の定期的訪問をとおして、こどもの自然遊戯観察をそれぞれ半年から2年に亙って、継続した。この間それらの経験と並行し、ある特定の子どもの誕生以降2才までの2年間を、毎週1回の家庭訪問をとおして、観察してゆくことが必修課題として与えられていた。それら課題についてタヴィストックでの各セミナーでグループ指導を受ける他に、Work-experience については、Mrs. Margaret Rustin (Senior Psychotherapist, Tavistock Clinic) に、更に Young Children Observation (幼児遊戯観察) については Miss. Kate Paule (Senior Psychotherapist, Tavistock Clinic) に Private Supervision(個別スーパービジョン)をそれぞれ1年

余程の期間受ける。

■Clinical Work for the training の概要: Clinical Seminars (症例研究セミナー), Work with Parents Seminar, Young People's Counseling Seminar, Reading Seminars及び Lectures に参加。具体的な臨床体験としては、St. George's Hospital, Department of Child Psychiatry(セント・ジョージ病院・児童精神科外来)においてMr. John Bremner (クライン派の Chief Psychoterapist)の監督指導下で、又 The Tavistock Clinic, Department of Children & Parents においては、 Mrs.M.Rustin の監督指導の下に、Child Psychoterapist Trainee として勤務。対象年齢3～16才に及ぶ数多くのサイコセラピー・ケースを担当し、それらの実績をとおして、セラピストとしての資質について高い評価を得る。

■Training Cases の概要: トレーニング・ケースとして3症例、幼児期、学童期、青年期それぞれのintensive-cases(3～5times weekly sessions) が必須とされた。タビストック内部でまずMrs.Martha Harris,そしてMrs.Shirly Hoxter のお二人の指導教官に師事し、更には3番目の症例について規定とされたタヴィストック外部の人間としてDr. Donald Meltzer(Institute of Psychoanalysis Lecture)に師事し、治療経過中それぞれの師から個別スーパービジョンを毎週1回定期的に受けながら、各症例をほぼ成功的に終結する。

■1979.9. Tavistock Centreにおけるトレーニング・コース全課程を修了。British Association of Child Psychotherapists の正会員に認定。同じ頃、4年余在職したセント・ジョージ病院・児童精神科外来を退職する。

■1980.2. 帰国後、東京・原宿で個人開業をスタート。クライン・メルツァーの系譜に列なる者として、さらにはW.R.Bion (ビオン)の思想的遺産を継承発展することを念願としつつも、日本での『精神分析』の土着化の行く末を視野に置きながら、専ら青年・中年層を対象とした臨床活動の傍ら、後進の育成指導に当たり、現在に至る。

<所属団体>:

- ・『日本精神分析学会』
- ・『日本心理臨床学会』

<主要参考図書>:

- ・『入門 メルツァーの精神分析論考』 岩崎学術出版社 2005
- ・『現代のエスプリ』別冊 『精神分析の現在』 至文堂 1995
- ・『児童分析の記録 I & II』メラニー・クライン著作集6&7 誠信書房 1987&1988